

<h1>第321回月例会議事録</h1>	安全技術応用研究会	
	承認	確認
	企画運営委員長	企画運営委員

◎ 日時 2020年 1月 24日（金）10：00～16：30

◎ 場所 きゅりあん 6階 中会議室

◎ 出席者 35名（法人会員：21社23名 個人会員：9名 オブザーバー参加3名）

1. 福田会長 年頭挨拶及び講演

「私たちの基礎と発展について」

※添付資料1-1参照

2. 報告事項

1) 自己紹介・トピックス紹介

- ・モグラたたきのように同様な災害が発生する。個別的な取り組みでなく、全体的な取り組みが必要。
- ・JQA(日本品質保証機構)から ISO45001 取得の企業が出てきたこと、また、曖昧な解説本が多いことの指摘があった。
- ・機械安全対策の費用が高いと現場から言われてきたが、対策の重要性の情報が役員まで届いた。等。

2) 定例会報告

- ・第320回月例会・第45回企画運営委員会報告・関西月例会報告
各報告内容については安応研 HP を参照願います。

- ・第320回月例会議事録：

<http://www.sostap.org/meeting/outline/images/tokyo320.pdf#view=Fit>

- ・第44回関西月例会議事録：

<http://www.sostap.org/meeting/outline/images/kansai44.pdf#view=Fit>

3. テーマ「RA 手引書の今後の活用について」

(企画運営委員会)

※添付資料 3-1参照

- ・会員からの意見(用語の統一、理解のしやすさ、実際に活用した結果、等)を踏まえて、2月末に第1版を完成予定。

- ・方向性 初心者でも RA 全体をできるガイドライン

RA のパート毎にガイドラインを編集

実機またはデモ機で実践して活用できるように編集

* 会員には無償配布される

4. テーマ「安全技術普及促進目的活動について」 (企画運営委員会 石原氏)

※添付資料4-1参照

トップダウン型での機械安全推進でないと、活動推進が限定される

* マネジメント層に経営リスクと理解させるのはかなり難しい

一つの理由として、人の命の価値が日本では低い。

例: 海外、特に米国では弁護士が金になるネタ集めをしており、一攫千金を狙っている。

その中で災害は経営リスクとなっている。

日本では機械災害ではないが労災死亡事故(自殺)1991年・2016年に発生しているが一向に働き方が変化していないと思える企業もある。

5. テーマ「既存設備の安全化について」

(企画運営委員会 西山氏)

※添付資料5-1参照

安全技術応用研究会ではこれまでは機械開発、機械製造側の安全を主として来たが、使用側の既存設備の安全要求を大きいことから、既存設備の安全化に取り組んでいくこととした。既存設備の安全を数値化してとらえ、分かりやすい判断情報とする。

* 参加者からは既存設備機械の安全に関して様々な意見交換がなされた。

6. テーマ「安全の基礎理論(2)」

長岡技術科学大学 福田教授

※ 添付資料6-1

概要

機械安全の共通基盤を確認するために、論理演算の基本公式や安全の伝達・危険の伝達の原理原則を解りやすく解説。

※前回資料は安応研会員専用 HP に掲載済み

<http://www.sostap.org/member/report/shiryou/20191018/images/no318-3-1.pdf#view=Fit>
福田先生の説明後、会員から活発な意見交換があった。

月例会説明資料

資料番号	資料名
1-1	「私たちの基礎と発展について」
3-1	「リスクアセスメント手引書に対する意見のまとめ」
4-1	「安全技術普及促進目的活動について」
5-1	2020年度の取り組む課題テーマ「既存設備の安全化」
6-1	「安全の基礎理論(2)」